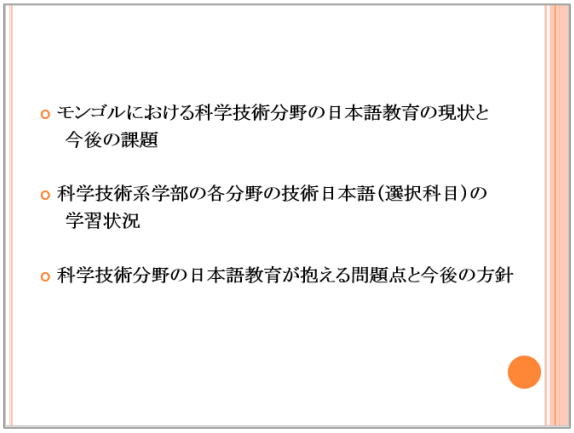
発表⑥

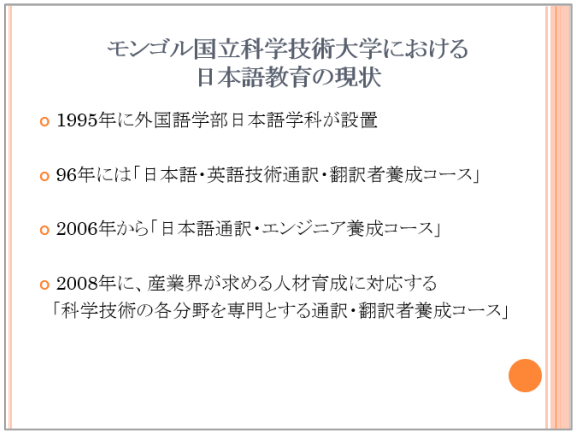
「モンゴル国立科学技術大学における日本語教育」

D. UNDARMAA、S. OYUNDELGER
モンゴル国立科学技術大学

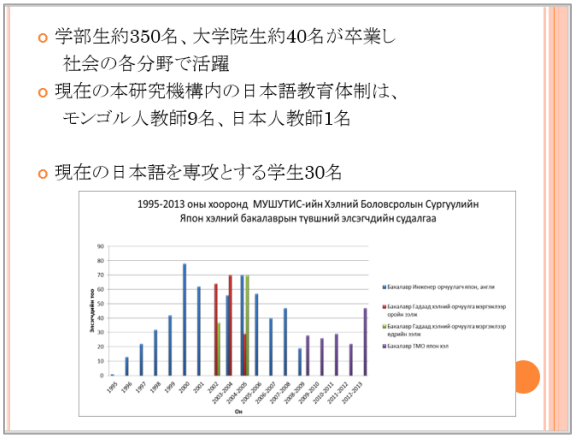
1



2



3



4

教室での講義以外の活動

- 2002年から毎年、ウランバートル市内の大学生を対象に「日本語スピーチコンテスト」
  約600名の大学生がコンテストでの発表を競い合い、
  約3千人の聴衆が会場
- 「日本デー」 2012年から、毎年開催し、約400名参加

5

- 2008年から日本に関する様々なテーマを題材に話し合う「日本語村」

- 約70名の日本人ゲストスピーカーから様々なテーマでプレゼンテーションがなされ、300名に上る学生が討議に参加

6

「科学技術の各分野を専門とする通訳・翻訳者養成コース」

- 1年次と2年次には基本的な日本語の講義

- 3年次、4年次には技術日本語と科学技術翻訳・通訳の講義が中心に開講

- 科学技術翻訳・通訳科目はⅠからⅣまであり、「地質学」「鉱物資源」「建築土木」「エネルギー」「情報通信」「バイオテクノロジー」

7

「科学技術翻訳通訳II (IT)」

- 3年次の学生を対象
- 週2回、一学期32回の授業時間数
- 2冊を基本教材

8

モンゴル国立科学技術大学における日本語教育の課題

- 「工学系高等教育支援事業」や本学理工系学部生の日本語学習意欲の高まりに対応する「技術分野における日本語の通訳・翻訳者コース」を発展・継続させていくことが重要

- 各科学技術分野において高いレベルの通訳・翻訳者の育成に資する新たな教材を開発するとともに、学内の理工系学習者を対象とした科学技術日本語の教育を充実させることも不可欠

9

モンゴル国立科学技術大学における選択科目としての日本語教育

- 2007年から各学部長との話し合のもと、日本語を選択科目としてカリキュラムに取り入れること

- 2008年から「日本語I」という授業がスタート
  /情報通信学部、コンピューター技術学部/

- 2012年から機械工学運輸学部スタート

10

日本語I

- 基本教材-『新日本語の基礎1』使用
- 授業数は週3回、一学期で48回の授業
- 専門用語の修得:ビデオ、オーディオ、コンピューターなど活用

問題点:

- 学習速度や理解度
- 日本語を専門に学ぶクラスとは大きく異なり、カリキュラムも違う

11

選択科目としての日本語教育の課題

第一点:

- 「日本語I」の授業だけでは、求められるレベルに達することは困難
- 引き続き「日本語II」を開講していくことが必要

第二点:

- 産業分野を問わず、各事業所は学生の外国語能力を採用時に重視する傾向
- 企業のニーズに応じた人材の育成が大学教育の場でも求めれている

12

ご静聴どうもありがとうございました

13